

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「おもい出して かこう」 教材名「いい こと いっぱい、一年生」

2 単元の目標

時間の順を表す言葉や主語と述語に注意し、経験を文で表せる。伝えたい思いが明確になるよう、出来事の順序に沿って短い文章の構成を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①時間の順を表す言葉や主語と述語に注意し、経験を文で表している。 (〔知識及び技能〕(2)ア・〔知識及び技能〕(1)カ)	①「書くこと」において、伝えたい思いが明確になるよう、出来事の順序に沿って短い文章の構成を考えている。(B(1)イ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

一年間で印象に残った出来事を選び、初め・途中・終わりの順を考えて書く。楽しかった行事名の一覧にせず、自分がしたこととそのときの思いが相手に伝わる出来事に絞る。学習指導要領のB(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)ア・〔知識及び技能〕(1)カを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点項目に加え、本案では〔知識及び技能〕(2)ア・〔知識及び技能〕(1)カを活動に関わる事項として扱う。

(2) 児童について

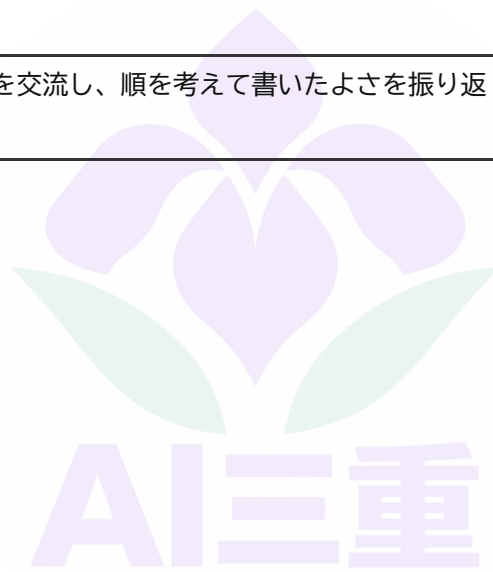
(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

自分がしたことを絵や短いメモにし、起きた順に動かして並べる。写真がなくても思い出せるよう学校の掲示や活動記録を手がかりにする。書けない児童は口述を教師が聞き、文にする。おおむね満足できる状況は、伝えたい思いが明確になるよう、出来事の順序に沿って短い文章の構成を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○一年間の活動を思い出し、自分がしたことの中から書きたい出来事を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
第2次	3～4	○出来事を絵や言葉のメモにし、初め・途中・終わりに分ける。	知①（語句や内容の整理）
	5 （本時）	○メモを順に並べ、相手が出来事を追えるか声に出して説明する。	思①（発言・学習記録）
	6～7	○順序を確かめたメモから文章を書き、思いが伝わる言葉を加える。	学習状況を見て支援する。
	8～9	○読み合って出来事の順が伝わるか確かめ、文章を仕上げる。	学習状況を見て支援する。
第3次	10	○思い出の文章を交流し、順を考えて書いたよさを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (5/10)

(1) 本時の目標

伝えたい思いが明確になるよう、出来事の順序に沿って短い文章の構成を考えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「そのとき、初めに何をして、その後どうになりましたか。順番に並べると、いちばん伝えたいことが伝わりますか」 【めあて】一年間で印象に残った出来事を選び、初め・途中・終わりの順を考えて書く。 〈予想される児童の反応〉 ・先に準備したことを書かないと、次のことが急に出てくる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「そのとき、初めに何をして、その後どうになりましたか。順番に並べると、いちばん伝えたいことが伝わりますか」 一年間の経験から伝えたい出来事を選び、したことを絵や短い文のカードにする。出来事の順序にカードを並べ、伝えたい思いが分かるか相手に話す。聞き手の質問を受け、足りない出来事を補って組み立てメモを作る。 〈予想される児童の反応〉 ・先に準備したことを書かないと、次のことが急に出てくる。 ・行事の名前より、自分がしたことを書きたい。 ・最後にどんな気持ちだったかを入れたい。	自分がしたことを絵や短いメモにし、起きた順に動かして並べる。写真がなくても思い出せるよう学校の掲示や活動記録を手がかりにする。書けない児童は口述を教師が聞き、文にする。 想定する難しさ：行事名を列挙する。思い出した順に書き、時間の順序が入れ替わる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 伝えたい思いが明確になるよう、出来事の順序に沿って短い文章の構成を考えている。(出来事カード・順序を確かめた組み立てメモ)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・最後にどんな気持ちだったかを入れたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「そのとき、初めに何をして、その後どうなりましたか。順番に並べると、いちばん伝えたいことが伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

